



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。

スポーツくじについてはこちらから

[スポーツくじ理念広報サイト「GROWING」]

<https://www.toto-growing.com/>

スポーツくじ



特別企画★ニュースポーツの普及等により
地域活性化の促進に取り組むクラブ

ひまわりスポーツクラブ(茨城県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM177_himawari.PDF

特集★子どもの体力向上に取り組むクラブ

うわじまアウトドアスポーツクラブ(愛媛県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM177_uwazima.PDF

連載★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への
移行に取り組むクラブ

NPO法人ゆうスポーツクラブ(山口県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM177_yu.PDF

助成金情報 >>> 詳細

お知らせ >>> 詳細

バックナンバー >>> 詳細

全体版 >>> 詳細



JSPA
Japan Sport Association

特別企画

★ニュースポーツの普及等により
地域活性化の促進に取り組むクラブ★

ひまわりスポーツクラブ 茨城県那珂市

総合型地域スポーツクラブには、地域コミュニティの核として、地域スポーツ環境の充実やスポーツを通じた地域課題解決などの取り組みが期待されています。

そこで今回は、スポーツによる地域活性化の促進に取り組むクラブを紹介します。

1

クラブ概要

市内10施設で各種教室を年間700回開催

茨城県那珂市では、平成19(2007)年に体育指導委員(現在のスポーツ推進委員)が那珂市総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会を立ち上げ、平成22(2010)年2月に「①地域コミュニティづくりに寄与するクラブを目指す」「②いつでも運動のできる環境を創る」をミッションに掲げた「ひまわりスポーツクラブ」を設立しました。

人口約53,000人の那珂市ですが、ひまわりスポーツクラブは市内全域を活動範囲とし、居住地近くの会場で教室に参加できるよう市内8地区に支部を設立する構想もあったことから、現在では市内10施設で各種教室(10種目)を年間700回ほど開催しています。会員には多くの種目にたくさん参加していただくため、年会費と保険料ですべての定期教室に参加できるよう会費を設定しました。参加回数の平均は月3、4回程度ですが、なかには10種目中5種目に参加する会員や、月20回ほど教室に参加している会員もいます。また、会員の33%は複数の種目に参加しています。

会員数は300人超。親子や三世代会員が増加

ノルディックウォーキング教室では、駐車場とトイレの整備された市内10カ所を拠点にコースを設定しています。ただ、会場が多いので教室開催当日の係員の割り振りや会場の使用申請、参加者名簿の回収に人手が足りず苦慮しています。また、会員向けの定期教室を開催するほか、自治会や各種団体を対象としたニュースポーツの普及活動にも取り組んでいます。

設立後9年目に379名まで達した会員数は、コロナ禍により100名以上減りましたが、その後徐々に回復し、現在では309名まで戻っています。最近の傾向として、親子3～4人や三世代での加入が増えています。

事務局は、市教育委員会スポーツ推進室(体育館事務室)の一角に置かせていただき、非常勤3名で対応しています。



まちづくり委員会でのニュースポーツ体験会



学童保育団体のニュースポーツ体験会



小学校でのニュースポーツ体験会

2

取り組み内容

各地区まちづくり委員会と連携したニュースポーツの普及

幅広い年齢層で楽しめるニュースポーツ普及の取り組み

那珂市には8地区のまちづくり委員会(自治会の統括組織)があり、以前は各地区とも運動会やサッカー大会、バレーボール大会が盛んに開催されていました。しかし、少子高齢化や趣味の多様化に加え、ケガの心配や試合前の練習が負担となってスポーツ行事に参加する人が減り、各地区まちづくり委員会内での各種スポーツ大会は一部の地区を除いて開催できない状況になっていました。また、8地区対抗のソフトボール、バレーボール大会へも全地区の参加が望めない状況です。このような状況では、これまでスポーツを通して築かれてきた自治会内や自治会間の交流や絆が失われてしまいます。

そのため、ひまわりスポーツクラブではケガの心配がほとんどなく、小学生から高齢者まで幅広い年齢層でほぼ対等に対戦でき、ルールが簡単で初めてでも取り組めるニュースポーツの普及活動をすることにしました。まず、平成28(2016)年度から各地区と連携しグラウンド・ゴルフの普及に努め、令和元(2019)年度からは8地区まちづくり委員会事務局長会議でニュースポーツの体験会開催を呼びかけ、ボッチャやオーバルボールなど9種目のニュースポーツの普及に取り組んできました。

※普及に取り組むニュースポーツ競技:ボッチャ、オーバルボール、シャフルボード、カラーリング、スピード・ラダーゲッター、ディスクゴルフ、卓球バレー、ユニカール、ニチレクボール

高価な用具の利用は無償貸与や助成金制度を活用

また、ニュースポーツの用具は高額なものが多く各地区では購入が難しいため、令和5(2023)年にボッチャとラダーゲッターを、翌年にオーバルボールをひまわりスポーツクラブから無償貸与し自由に使用できるようにしました。その後、参加できる指導員の人数を見ながらできるだけ多くの種目を参加者に体験していただき、大会を自主開催できるよう指導してきました。現在では3地区において大会が開催されており、令和6(2024)年8月には最初の市民大会が34チーム169名の参加により開催され、大いに盛り上がりました。

各地区における大会種目については、ひまわりスポーツクラブが普及に取り組んでいる9種目のうち、ボッチャ、オーバルボール、シャフルボード(一部の地区は会場スペースの関係上カローリング)の3種目に集約されつつあります。指導員(審判員)については、当初、茨城県ニュースポーツ協会の研修を受けたひまわりスポーツクラブ指導員が行っていましたが、徐々に各地区内に指導のできる人材が育ってきています。

前述したとおりニュースポーツの用具は高価なため、自前でそろえることはなかなか困難です。そこで、本田記念財団が実施している総合型地域スポーツクラブへの助成制度を活用し、ニュースポーツ普及事業の経費に充てています。また、用具は茨城県レクリエーション協会を通して購入すると割引を受けられるので、これを利用しています。



第1回ニュースポーツ市民大会
(写真の競技はシャフルボード)

行政や各種団体と連携した活動

ノルディックウォーキング講習会を開催

平成29(2017)年度に那珂市が静峰ふさと公園に整備したノルディックウォーキングコース(全コース芝)の利用促進のため、3年前から市商工観光課から委託を受けてノルディックウォーキング講習会を開催しています。また、近隣市町村5クラブとの合同ノルディックウォーキングのコースにも使用し、ノルディックウォーキング専用コースのPR活動をしています。



静峰ふさと公園ノルディックウォーキング教室



クラブ合同ノルディックウォーキング教室

市民駅伝大会のゼッケン提供でクラブをPR

また、小中学生が多く参加する那珂市スポーツ協会主催の市民駅伝大会で使用していたゼッケンは、これまで参加者が用意することになっていました。ほとんどが手書きで小さな文字や線の細い文字が多く、中継係員が読みづらいものもありました。そこで、ひまわりスポーツクラブは協賛団体の立場で、規格に合ったクラブ名入りゼッケンを提供するとともに、ボランティアスタッフを新たに派遣しています。クラブで活動する小中学生は同学年のなかでは身体能力が高い子が多いので、駅伝大会に出場したり応援に駆けつけたりする児童生徒もおり、クラブ名入りのゼッケンを見て家庭や友達間で、クラブの話題をすることが増えているようです。市の広報誌を目にすることの少ない年齢層へのPRとして効果がありました。

3

取り組みの効果

体験会や大会開催を通して進むニュースポーツ普及の活性化

まちづくり委員会と連携したニュースポーツの普及に関しては、8地区すべてで事業を始めてから3年が経過し、各地区とも毎年ニュースポーツ体験会や大会の開催など、自治会活動におけるスポーツ行事が増え、活動の活性化が進んでいます。

また、自治会のニュースポーツ体験会に参加した子どもが、体験会がおもしろかったことから学校でも開催してほしいと先生に相談したところ、小学校から当クラブに依頼があり令和6(2024)年7月に小学5年生と特別支援学級の生徒を対象に授業でニュースポーツ体験教室(オーバルボール、ポッチャ、スピード・ラダーゲッター、ディスクゴルフ、カローリング)を開催する運びとなりました。そして11月には、ニュースポーツを体験した5年生が今度は指導者となって他の学年の体験会を開催することが計画されているなど、市内の小学校等にも徐々にニュースポーツが普及され始めています。

その他、市内各地でニュースポーツ体験会等を開催するに伴い、学童保育団体や民生委員児童委員協議会、女性団体*からも体験会開催の要請があり、ニュースポーツを通じた地域の活性化を感じています。

*公民館の婦人学級を卒業した人たちで組織する料理や手芸など自己研鑽に努める団体

用具の損傷、指導員の謝金、日程調整等が今後の課題

一方、問題点としては、

- 1.一部用具の損傷が目立ち、買い替え時期を迎えていること
 - 2.体験会は無償で開催しており、指導員の謝金(交通費)の支払いに苦慮していること
 - 3.会員向けの定期教室を年700回ほど開催しているなかで、年30回、延べ150人を超える指導員の確保が難しくなっており、日程調整が厳しくなっていること
- などがあります。

今後の対策としては、損傷が目立っているシャフルボードは使用頻度が高いので、数年かけての買い替えを検討しています。謝金や指導員の確保は、全体の予算や事業量を見ながら可能な範囲でニュースポーツ普及事業を続けていきたいと考えています。



第1回ニュースポーツ市民大会(ボッチャ)



民生委員児童委員協議会のニュースポーツ体験会
(スピード・ラダーゲッター)

4

クラブの今後の展望

地域から必要とされるクラブとなるために…

ニュースポーツの市民大会や各種団体と連携したニュースポーツ普及活動は、幅広い年齢層に受け入れられやすく、地域内交流や地域間交流も期待でき地域の活性化につながるので、来年度以降も開催する予定です。

まちづくり委員会と連携したニュースポーツの普及事業は、高価な用具の確保と人材育成を伴う事業で、継続は容易ではありませんが、クラブのミッションに掲げている地域コミュニティづくりに関する事項でもあり、多くの市民や行政の目や耳に触れる機会が増えることにもつながるため、クラブが地域に認知され地域から必要とされるクラブとなるよう今後も継続していきたいと考えています。

ひまわりスポーツクラブ 会長兼クラブマネージャー 根本 修一

クラブプロフィール

設立年	平成22年2月28日
所在地	茨城県那珂市戸崎428-2 なかLucky FM公園内
運営	会員数:309名(令和6年9月現在)、予算規模5,304,000円(令和6年度)
特徴	・那珂市全域を対象 ・市内10会場で、できる限り多くの種目を実施 ・できるだけ多くの種目に参加するよう会費は一本化
連絡先	〒311-0121 住所:茨城県那珂市戸崎428-2 TEL:090-7411-5338 FAX:029-297-0076 HP: https://himawarisports.web.fc2.com E-mail:nakahimawarisports@yahoo.co.jp

特集

★子どもの体力向上に取り組むクラブ★

うわじまアウトドアスポーツクラブ 愛媛県宇和島市

令和元(2019)年以降、子どもの体力が低下傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の拡大により拍車がかかった運動不足について、抜本的に改善することが必要とされています。
そこで今回は、子どもの体力向上に取り組むクラブについて紹介します。

1

クラブ概要

幅広い年代がボルダリングを行うクライミング部と 高齢者を中心とした山岳部の二つが活動

うわじまアウトドアスポーツクラブは、愛媛県宇和島市を拠点に活動している総合型クラブですが、山岳、クライミングに特化したスポーツクラブです。

当クラブは平成16(2004)年に、国の総合型地域スポーツクラブ推進の施策を受け、昔から活動のあった山岳会の月例会で、現会長の西田六助を中心に役員全員で総合型クラブへの理解を深めるなかで、平成15(2003)年からの2年間を準備期間としてスタートし、平成17(2005)年に設立し、今年で20年目を迎えています。母体の宇和島山岳会は半世紀、50年の歴史があります。

ここまで当クラブを続けてこられたのは西田会長の尽力によるところが大きく、過疎化が進む県南予地方において、貴重なコミュニティの一つであると考えられます。

また30年前の平成6(1994)年に会員個人の倉庫を提供いただき、当時はまだ少なかったボルダリング施設ができたことが大きく、クラブハウスとしての活用も含め現在に至るまで、会員・非会員にかかわらず年代を問わず、山好き、岩好きの人々が集う場になっています。

現在は、高齢者を中心とした登山(山岳部)と子どもを中心とした幅広い年代のボルダリング体験(クライミング部)がそれぞれ行われていますが、今回は主にクライミング部について紹介させていただきます。

2

取り組みの内容

地域の施設や学校でクライミングの楽しさを知るきっかけを演出

平成29(2017)年に市のゴミ焼却施設の移転に伴い、既存施設の有効活用として屋内プールと体育館、そして屋内クライミング場を併設した施設(宇和島市スポーツ交流センター)が完成。旧焼却施設跡の壁がクライミングに最適であり、活動をしてほしいと地域住民の意見が多かったため、同年同施設を利用したジュニアクライミングクラブを立ち上げました。

また当時、えひめ広域スポーツセンターへ所属していた小学校教諭からクライミングを学校でも実施してみてもとアドバイスがあり、愛媛県南予地区の学校へ案内したことをきっかけに学校の体育や自由活動の時間に指導者が出向き、子どもたちにロープを使ったクライミングやロープなしで登るボルダリングの楽しさを伝える活動を始めました。

そして、この活動をきっかけにクラブ活動に参加したり、クラブの子どもを中心にその友達や保護者を通じて、新しく活動に参加する子どもたちも増えています。さらに、小学校から活動していた子どもが中学、高校になっても部活動とは別にクライミングをするため、継続してクラブへ通う場合もあります。

令和6(2024)年11月現在、クラブの小学生・中学生会員数は42名(高校生はジュニアクラブから外れ、部活動および自主活動に移る)で、3クラスに分かれそれぞれ週1回練習に励んでいます。

指導者は現在5名で、週3回ボランティアで子どもたちの指導にあたっています。最近のクライミング人気もあり、特に募集をかけなくとも入会希望者が集まっている状況です。

クラブでは、クライミングを基礎から学び、競技大会をめざす人から、達成感などを味わう楽しさを求める人と幅広い志向の活動を支えています。



山岳会豊田ジム2024
キッズボルダリングコンペ



大洲青少年自然の家ボルダー壁
ボルダリング教室



うわじまスポーツ交流センター
クライミング場体験イベント

県内全域に「壁の出前」を行い、移動ボードを使ってボルダリング体験を実施

また要請があればクラブ所有の手づくりボルダリング移動ボードを、学校、公民館、地域イベント等に設置しに行っています。

この「壁の出前」を始めたのは、専用施設以外でもボルダリングを体験してもらいたいといった思いから、コンパネ(コンクリートパネル)と鉄パイプを利用した簡易な壁を作製して、平成17(2005)年に地域のイベントに出向いたことがきっかけです。好評いただいた愛媛県愛南町では、定期的な依頼があります。そのほかにも、各地の公民館での設置が口コミで広がり、県の南予地方内中心だった「壁の出前」が多方面に広がり、今では県下全域に出張するまでになりました。



宇和島市立宇和津小学校ボルダリング壁設置
ボルダリング体験



宇和島市立畑地小学校ボルダリング壁設置
体育の教室

3 子どもたちの欲求をかなえる場所を提供し 継続的な活動を支援することで、体力向上に取り組む

基本的にクライミングは個人競技で、個人差の優劣がつくスポーツですが、本来は純粋に登りたいという欲求のために自己の向上をめざす活動でもあります。取り組み次第で以前登れなかった課題が、登れるようになる達成感が得られる見た目にもわかりやすいスポーツです。そのためにはやはり地道にトライを続ける意志、そして長く楽しめる場を提供することが必要です。

子どもたちの頑張る姿は指導者、保護者も元気づけます。活動を続けるなかで最近是全国大会に出場する選手も出てきており、取り組みの成果も出始めています。

形として表にくい成果としては、競うことに消極的な子どもたちもクラブを楽しみに通ってくれる姿や、精神的に成長して課題に積極的に取り組む姿を見せてくれるようになるのはやはりうれしいものです。また指導にあたり保護者の積極的な支援も必要とするため、保護者自身も子どもと一緒に登り始め、クライミングを楽しむ親子も増えてきました。

ただ地域の部活動移行が進んでおらず、クラブ生、保護者から近隣の学校にはクライミングの活動がないため、クライミング部など、活動ができる環境をつくってほしいとの要望はあるものの中学生の部活動として認められていません。この状況をどうにか改善したいと考えております。現時点では具体的に市への要望等の活動を行えていませんが、これからの課題です。

4

持続可能なクラブにするために、地域住民にクライミングを身近に感じられる活動をめざして

現時点で当クラブが法人化する予定、可能性はありません。またこれまで当クラブを支えてこられた方々の高齢化もあり近々役員の刷新も控えています

部活動地域移行でスポーツから離れてしまう子どもたちなどの受け皿として、クライミングで協力したいと考えていますが、クラブのある宇和島市においてもどのように進んでいくのか全然見えない状況に不安を感じています。今後は施設の拡充や活動場所の増加を期待しています。

長年続いてきたコミュニティをよりよく引き続けられるか、脆弱な体制をどう強化し、また次世代へつなげていけるか課題は山積^{ぜいじゃく}していますが、年齢制限なく、幼児期の子どもから大人まで、地域住民にとってクライミングが身近なものとなるような活動をしていきたいと思っています。

うわじまアウトドアスポーツクラブ クラブマネジャー(クライミング部) 橋本 暁

クラブプロフィール

設立年月日 平成17年2月20日

所在地 愛媛県宇和島市

運営 会員数:129名(令和6年11月現在)、予算規模:512,123円(令和6年度)
本来は自己の向上をめざし純粋に登りたいという欲求のために行う活動でもあります。

特徴

- 高齢者を中心とした登山と子どもを中心とした幅広い年代のボルダリング体験がそれぞれ行われている。
- ボルダリングはクラブで基礎から学び、競技大会をめざす人から達成感などを味わう楽しさを求める人と幅広い競技志向の活動がある。
- ボルダリングの楽しさを体験してほしいため、自前のボルダリング壁を作製し、無償で小学校や公民館、地域のイベントへ運び、設置している。特に小学校は授業で活用されるなど学校からかなり重宝されている。

連絡先 〒798-0044 住所:愛媛県宇和島市野川甲1270-12
TEL:0895-23-2527 FAX:0895-23-2527
HP:
E-mail:nis6@mx4.et.tiki.ne.jp

★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください！
動画はこちら➡<https://youtu.be/7kfwSGTc11Y>



過去の
動画は
こちら



連載

★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に取り組むクラブ★

NPO法人ゆうスポーツクラブ 山口県岩国市

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒数の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1

クラブ概要

ゆうスポーツクラブを設立することになったきっかけは約20数年前にさかのぼります。平成14(2002)年度から実施される完全学校週5日制の対応策を検討するため、平成11(1999)年に学校関係者、教育委員会事務局で「学校週5日制対応準備委員会」が設立されました。その席で中学校運動部活動や地域教育のあり方などについて協議を行いました。平成14(2002)年度から完全週5日制になり、毎週土曜日が休みとなります。週5日制になる以前は活動はありませんでした。土曜日午前中の小・中学生の活動はなかったので、週5日制対応準備委員会の委員から、その時間の子どもの受け皿となるのは、スポーツ少年団なのか、中学校部活動なのか、それ以外なのかという、居場所としてのスポーツの受け皿の調整もしくは整備が必要ではないかとの見解が示されました。それを受け、スポーツ面での対応策を町内の体育指導委員(当時)、スポーツ少年団関係者、学校関係者、学識経験者、教育委員会事務局などで検討することとなりました。まず、町内のスポーツ活動について調査・把握・分析を行いました。

由宇町の地域スポーツの過去に触れると、昭和40(1965)年代後半に設立された由宇町体育協会は地域住民のスポーツ振興や活動年齢も比較的若く、スポーツ少年団の活動支援も行っていました。そのようなこともあり、スポーツ少年団は小学生加入率66%(山口県内1位)で、多くの種目が活発に行われていました。中学校においても部活動数も多く、顧問教員と地域指導者との連携も多くありました。しかし、指導者の高齢化や若い指導者への移行がうまくいかず、スポーツクラ

ブ設立を検討した平成12(2000)年当時は、体育協会の活動も弱体化し、体育協会設立の目的の活動ができていない状況が起きていました。また、中学校部活動だけでなく、スポーツ少年団、一般の活動、高齢者の活動、各層・各段階で途切れるスポーツシステム、例えば、スポーツ少年団は児童が小学校を卒業すると卒団していき、中学校の部活動へと移行するというような課題などがあることがわかりました。そこで、将来を見据えた「総合型地域スポーツクラブ」の設立・育成をめざすこととなりました。

ゆうスポーツクラブの理念は、次の通りです。

生まれてから死ぬまで、多様な形でスポーツに関わり(する、みる、ささえる)が持てる仕組みづくりと「生涯スポーツの循環システムの構築」です。

理念実現のために、以下の4項目が実現できるクラブをめざしています。

- ①スポーツ活動を通じた青少年の健全育成と地域の活性化
- ②各種スポーツ活動を自由に体験できる環境づくり
- ③各世代を通した一貫性のあるスポーツ活動の振興
- ④人材育成と施設の有効活用

コロナ禍により、1,200名の会員が900名に減少し、コロナ禍が明けた令和6(2024)年9月現在も920名と会員がコロナ禍前に戻らない状態が続いています。スポーツ活動の現状は、小学生(スポーツ少年団11団体)・中学生(中学校運動部・クラブ内運動部5部)・一般(一般種目部11種目)の定期活動、キッズ・高齢者などのスポーツ教室(16教室)、イベント、施設のオープン化などを積極的に実施し、会員増・指定管理施設の利用者増に努めています。事務局体制は、専従職員3名、パート職員5名と理事、ボランティアで地域住民の健康・福祉の増進に向けた活動を実施しています。

2

クラブづくりの始まりは 地域スポーツの現状調査から

創設前の体育指導委員が行った調査で判明したこと

クラブづくりの始まりは、平成12(2000)年に行った由宇町体育指導委員(現スポーツ推進委員)が行った町内のスポーツ現状の調査・把握・分析によるものです。

- ◎一般の活動は、メンバーの固定化・補助金依存の強い団体が増えていました。
- ◎子どもたちの活動は、少子化・指導者の高齢化・指導者の減少・勝利至上主義・スポーツをやる子とやらない子の二極化が進んでいました。
- ◎中学校運動部の現状は、生徒数の減少・指導者の高齢化・指導者の減少・生徒が希望する種目がない・地域との連携がないなど多くの課題がありました。
- ◎スポーツ振興の現状は、行政主導のイベント中心・予算消費型で比較的健康づくりに関心のある一部の住民が受益してきたと考えられます。生涯スポーツの推進、スポーツはみんなのものという考え方からみると、このための積極策は極めて少なかったといえます。

この調査結果を受け、地域は次のように考え活動を開始しました。

地域にある多くの課題に対し、今のままでは現在の活動を10年後20年後に残せない。今活動

している者の役目として将来もこの地域で今と同じようにスポーツ活動ができる環境の必要性を感じ、地域スポーツの仕組みを変える、中学校の運動部・スポーツ少年団・地区体育協会が一つになり、生まれてから死ぬまでのスポーツとの関わりをめざす総合型地域スポーツクラブ設立・育成を決定しました。

クラブが行った具体的な取り組み

クラブが最初に行ったことは、中学校とクラブが連携するために、地域にあった各層・各段階で途切れるシステムの垣根を取り払うことでした。地域のスポーツ活動を一つの仕組みで実施する場合、中学校は特別ではなく中学生も地域と一緒に活動することが大切と感じ、当時の校長、教頭、部活動主任、設立準備委員会、教育委員会とで何度も話し合い中学校運動部のクラブ参加が決定し、その後、中学校の保護者会に設立準備委員会が説明を行い、保護者から了承をいただきました。最終的に中学校は運動部員、教員全員のクラブ加入、クラブは部活動支援、生徒の地域参加などで協働・連携することとしました。また、この協働・連携が前に進むよう教頭先生が理事として理事会に参加し、中学校の意見をいただくことにしました。クラブ設立から20年、地域スポーツを取り巻く環境、特に中学生のスポーツ活動を取り巻く環境は大きく変わり中学生の思いとは少し違う方向に進んでいると思います。現在も月1度の理事会に教頭先生も毎回参加し、多くの課題について話し合い方向性を決定しています。

指導者、財源、活動場所の確保方法と連携している関係団体

指導者については、スポーツ少年団・中学校運動部・地区体育協会などが一つになりできたクラブであることから、当地区ではクラブ設立前と同様の指導者で活動ができています。財源についても、会費、講座収入、指定管理受託など知恵を出しながら賄っています。活動場所は、指定管理施設・学校施設などを活用し、クラブ設立前と同様に活動できています。また、クラブ単独では活動も限られてくるので、地域内の多くの団体とも協働し、保健センターとの健康づくり事業、シルバークラブ(老人クラブ)や婦人会とのスポーツイベントなどを実施しています。

取り組みを進めてきたことを振り返って

取り組みを進めてきたなかでよかったことは、クラブにはボランティアの方が多くいることです。当クラブのボランティアは、個人ボランティア(一般、中学生)と連携する他団体(保健センター、シニアクラブ、婦人会、広島カープ由宇協力会など)があります。ボランティアにとってクラブの活動に参加することのよさは、多くの人と知り合い、クラブを通じてのコミュニティが始まり、活動の幅も広がっていくことです。一方、クラブにとって多くのボランティアの存在は、イベント等を安全に実施するための力であり、少ない人数で活動しているクラブ事務局、理事、指導者にとっては大きな助けとなります。そして、他団体とともに協働・連携することで、クラブの活動の幅も徐々に広がっていくのです。つまり、総合型地域スポーツクラブにはスポーツを通じた人づくり、まちづくりも期待されていますが、そのためには多くの人が必要だということです。

また、苦勞したことはクラブの協力者を得るために、当初は持ちつ持たれつの考えで進めましたが、クラブが協力するばかりとなってしまう、うまくいかなかったことです。そこから共存共栄の関係づくりが重要と考え構築を進めた結果、現在は本来のお互いさま関係ができています。そのような関係づくりをするため、地域に根付いた活動に心掛けています。

3 多くの課題に取り組み解消への道が開ける

(1) スポーツ少年団、中学校運動部、地区体育協会が一つになったスポーツクラブを設立したことにより、学校運動部にあった多くの課題(生徒数の減少・生徒数減少による教員の減少、種目指導できる教員がない・生徒が希望する種目がない・地域との連携がない……など)を少しでも解消するため次のことを実施しました。活動面では、合同練習・交流試合(スポーツ少年団×中学生、中学生×一般)、大会の審判応援、中学校運動部への指導者派遣(学校の顧問教員が中心で派遣コーチは補佐をする)が始まり、中学生の活動・指導に大きく寄与しています。部活動経営面では、クラブ設立当時の由宇中学校PTA会長から、生徒数の減少や部活動の任意加入制により、学校が生徒から徴収する部活動費が少なくなり、生徒たちには頑張って上位大会に出場してほしいが、部活動費がないので勝ってほしいという思いはあるけれど、勝ったら困るといった話を聞きました。そこでクラブは中学校運動部に対して活動支援金を20万円(当時)出すこととし、資金捻出のため、クラブ全体の活動支援金の見直し(一般活動の活動支援金の減額)を行いました。また、地域イベントへの中学生の積極参加を進め、参加者、ボランティアとして多く参加し、イベントボランティアは企画段階から参画しています。

(2) 現在、全国的に進められている中学校の部活動改革は各自治体も取り組んでいますが、多くの自治体で保護者への説明不足などもあり地域の合意形成も図れていない状況で進んでいます。当市でも部活動の地域移行の協議は行っていますが、未確定なことも多く、地域・保護者との合意形成が遅れています。その間でも、中学校は部活動時間が短くなったり、土日の練習なしなど中学生の環境は変化しています。クラブは種目部と話し合い、中学生の活動の場の確保、選択肢を増やす活動を実施しています。

先行的にクラブと中学校は部活動連携について具体的には次のことを進めています。

- 中学校部活動になくクラブで中体連登録を行っている活動:剣道、陸上競技、新体操
- 中学校部活動と並行している活動:柔道(地域練習ができないときは部活動で活動)
- 練習はクラブでの活動が中心だが、学校部活動としての活動:卓球(試合出場に課題があるため)
- 市内の中学校から集まる活動:軟式野球(当該校の部活動にも参加し、以外にクラブチームで活動)
- 小学校時代にやっていたスポーツの継続:空手道、ダンス(クラブ内種目部のオープン化)

参加する中学生は練習時間を確保するなど、好意的に参加しています。

しかし、事務局は次のように考えています。地域移行が部活動改革であるのであれば、部活動は今後も公のスポーツ・文化活動とする必要性を感じています。行政が早く方針を示し、徹底的に協議して、中学生のための新たなルールづくりを考えなければよい活動は実現できないと思います。実現のためのキーワードは持続化、自走化です。



卓球練習(スポーツ少年団×中学生×一般)

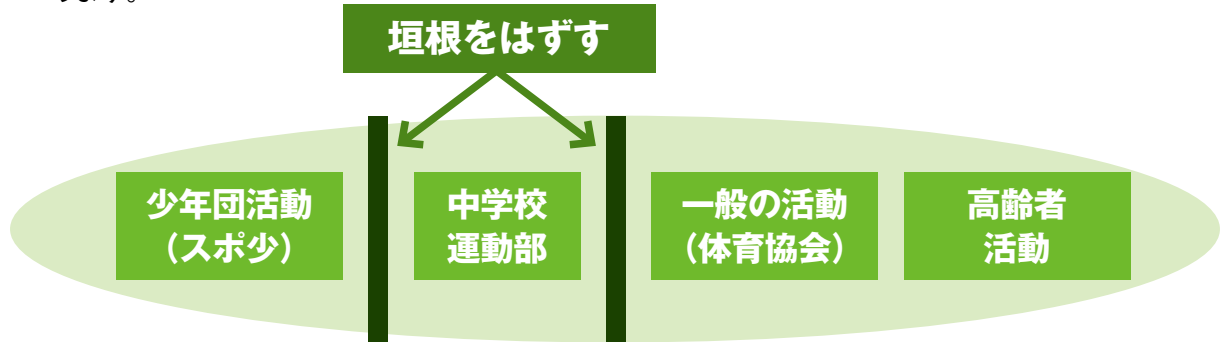


スポーツフェスタ(四方綱引き)

4

垣根をはずして自由に行き来できる クラブづくりをめざして

目標は、めざすクラブ像を実現し、理念を達成することです。そのために次のことをさらに進めます。



地域にあった各層・各段階の垣根を取り払い、途切れるスポーツシステムをやめ、自由に交流できる環境、一貫指導の実現などが可能になり、一人ひとりの思いに合う活動が実現できます。



中学生は、自分のやりたいことを自由に選べる選択肢を増やす活動環境をつくりたいと思います。部活動とクラブの連携が普通にある地域スポーツの仕組みを創造していきたいと考えています。

上記が実現できれば、理念である「生まれてから死ぬまでのスポーツとの関わり」が持てる地域になるかと思います。また、中学生の活動の選択肢、スポーツ機会の提供、継続的な活動が確保できます。そうなることを信じて、これからも地域で活動していきます。

NPO法人ゆうスポーツクラブ 事務局長 菅岡克則

クラブプロフィール

設立年月日 平成13年4月1日（平成15年12月16日法人登記）

所在地 山口県岩国市由宇町南沖一丁目13番1号

運営 会員数：920名（令和6年9月現在）、予算規模35,446,100円（令和6年度）

特徴

- 多世代会員がいる（4歳～80歳代）
- 多種目の活動を実施している
- スポーツ少年団、中学校運動部はクラブ会員として活動している
- 地域との協働事業を進めている
- 由宇地区の体育施設の指定管理を受託している など

連絡先 〒740-1425 住所：山口県岩国市由宇町南沖一丁目13番1号
TEL：0827-63-1400 FAX：0827-63-1401
HP：<http://yu-sc.jp>
E-mail：j.ysc@yu-sc.jp

助成金情報

ノエビアグリーン財団2024年度助成事業

[実施団体] (公財)ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、青少年の健全な育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

[申込期間]

2024年12月2日(月)9:00～2025年1月15日(水)正午12:00

団体と個人で応募できます。詳しくは、以下のホームページをご確認ください。

<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/>

ヨネックススポーツ振興財団2025年度助成金

[実施団体] (公財)ヨネックススポーツ振興財団

ジュニアスポーツ振興助成事業(全スポーツ競技)

全てのスポーツ競技において、ジュニアスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ当該団体としての活動を実施している団体を対象とします。

※中学校部活動の地域移行(連携)推進助成に関しては、中学校・地方公共団体等と連携を図り推進活動を実施している団体を対象とします。

[申込期間]

[前期・通年対象期間]

2025年4月1日～9月30日および2025年4月1日～2026年3月31日の事業

申請受付開始:2024年9月13日 10:00

一次締め切り:2024年11月5日 15:00

最終締め切り:2024年12月5日 15:00

審査結果通知:2025年3月上旬(予定)

[後期対象期間]

2025年10月1日～2026年3月31日の事業

申請受付開始:2025年4月1日 10:00

一次締め切り:2025年5月10日 15:00

最終締め切り:2025年6月10日 15:00

審査結果通知:2025年9月上旬(予定)

詳しくは、以下のホームページをご確認ください。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/josei.html>

お知らせ

日本スポーツ協会情報

JSPO Plus「部活動改革」記事のご紹介

現在、全国の公立中学校で運動部活動改革が進んでいます。

「運動部活動改革(地域クラブ移行、地域連携)ってなに？」

「なぜ運動部活動改革が必要なの？」

「運動部活動改革の課題って何？」

など、気になる方も多いのではないのでしょうか。

この記事では、主にこれから中学生になるお子さんを持つ保護者に読んでいただくためにこれらの話題について解説しながら、JSPOが運動部活動改革に向けてどのように取り組んでいくかを紹介しています。

少子化や教員不足などの事情のために、子どもたちのスポーツ機会をなくすことがないように、一人ひとりが意識して行動するきっかけとなればと思いますので、メルマガ購読者の皆さんもご覧いただくとともに、身近な子育て世代の方にもぜひお伝えください！

URL: <https://media.japan-sports.or.jp/column/134>

「令和6年度女性スポーツサポート研修会」開催のお知らせ

JSPOでは、女性を対象としたスポーツ指導者やスポーツへの参加を促すうえで留意すべき医学・科学的知見をまとめた「女性スポーツ促進に向けたスポーツ指導者ハンドブック」を作成していますが、本年11月に、最新の知見に基づく内容に改訂しました。

▼ハンドブックはPDFデータのみので作成となりますので、以下からご覧ください

<https://www.japan-sports.or.jp/women/tabid1336.html>

改訂後のハンドブックの内容に基づくオンライン形態の研修会を以下のとおり開催します。

一部の競技・資格を除いて、更新研修の対象にもなりますので、女性のスポーツ指導現場に携わる指導者、競技者の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

▼詳細(講演者・内容・注意事項等)はこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1221.html>

■回・日時(入室開始12:30~)

第1回:令和6(2024)年12月14日(土) 13:00~16:25

第2回:令和7(2025)年1月25日(土) 13:00~16:15

第3回:令和7(2025)年3月2日(日) 13:00~16:25

■参加料:5,500円(税込)

■定員:第1回・第3回各500名 第2回250名(先着順)

■申込受付期間 ※回によって異なります。

第1回:令和6(2024)年11月11日(月)～12月3日(火)

第2回:令和6(2024)年12月23日(月)～令和7(2025)年1月14日(火)

第3回:令和7(2025)年1月27日(月)～2月18日(火)

■申込方法

【JSPO 公認スポーツ指導者の方】

▼指導者マイページ

https://account.japan-sports.or.jp/sign_in

<備考>

本研修会の参加により、JSPO公認スポーツ指導者資格の更新研修を修了したことになります(一部の資格を除く)。

詳細は当協会ホームページ(<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid233.html>)をご確認ください。

【公認スポーツ指導者以外の方】

下記URLからお申し込みください。

第1回:<https://online.npc-tyo.co.jp/event/89843/spGoOjd49z6e>第2回:<https://online.npc-tyo.co.jp/event/91312/spGoOjd49z6e>第3回:<https://online.npc-tyo.co.jp/event/91313/spGoOjd49z6e>**<本件に関する問合せ先>**

【研修会の内容について】

公益財団法人日本スポーツ協会 スポーツプロモーション部 プロモーション課

TEL:03-6910-5810 Mail: woman@japan-sports.or.jp**【日本スポーツ協会指導者資格の更新について】**

公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO)スポーツ指導者育成部

※指導者マイページメニュー内の「Q&A・お問い合わせ」内のフォームからお問い合わせください。

令和6年度公認クラブマネジャー研修会の開催について

JSPOでは、公認クラブマネジャー資格の更新研修として、資格保有者の資質向上および連携を図ることを目的に「公認クラブマネジャー研修会」を毎年開催しています。

更新研修が未受講の方はもちろん、受講済みの方にとっても新たな学びとなる内容となっておりますので、ぜひ受講をご検討ください。

※お申し込み方法等の詳細については、12月上旬ごろをめどに、日本スポーツ協会公認クラブマネジャー研修会専用ページ(下記URL)に掲載予定です。

■日時・開催形態

令和7(2025)年1月26日(日) 12:55～17:15(予定) ※12:20～入室開始予定

オンライン開催(Zoom)

■公認クラブマネジャー研修会専用ページ

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid245.html#01>

■申し込み方法

申し込み方法等の詳細は12月上旬ごろまでに上記専用ページに掲載予定です。

※Zoomの参加URLは参加者決定後、研修会2日前までにお知らせいたします。

■内容

『これからの総合型地域スポーツクラブについて考える』(仮)

※詳細については検討中

日本体育・スポーツ経営学会 研究集会のお知らせ

日本体育・スポーツ経営学会は、体育経営・スポーツ経営に関する科学研究を促進し、体育・スポーツ経営学の発展を図り、さらに体育・スポーツ経営の実践に資することを目的とする研究団体です。

日本体育・スポーツ経営学会が実施する、総合型地域スポーツクラブに関する研究学会を以下の通り開催いたしますので、興味のある方はぜひご参加ください。

日本体育・スポーツ経営学会 第73回研究集会(シンポジウム／ディスカッション)**■テーマ**

「ヨコグシ」で考える地域クラブマネジメント ―まちづくりの発想で広げる地域ネットワーク―

■日程

令和6(2024)年12月21日(土) 13:00(12:30受付開始)～16:00終了予定

■開催方法

ハイブリッド開催(対面&オンライン)

対面会場:立命館大学大阪いばらきキャンパスフューチャープラザカンファレンスホール

<https://www.ritsumei.ac.jp/campusmap/#oic>

リモート配信:Zoomウェビナー

※お申し込み、参加費納入後に接続情報をご案内します。

■参加費

1,500円(対面・リモートともに同額)

<振込先>三井住友銀行 牛久支店 普通4464879 日本体育・スポーツ経営学会

■申し込み方法

申し込みフォーム(<https://forms.office.com/r/e24g8DDVsP>)から

■参加申し込み期間

令和6年(2024)年12月13日(金)まで

▼詳細はこちら

<https://jsmpes.jp/content/files/kenkyuusyuukai/20241101-052043.pdf>

<お問い合わせ先>

日本体育・スポーツ経営学会 第73回研究集会 事務局

担当:川邊保孝(東海大学/日本体育・スポーツ経営学会 アウトリーチ委員会)

E-mail: jamps.office@gmail.com